

関口 雅文

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

正確に写すことではなく、モデルさんが作り出すフォルムやポーズから感じたインスピレーション、制作中に起こったアクシデントも含め「いかに楽しみながら描けるか」を重視しています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

大きさに関しては、木炭紙から B2 位のサイズ感があると、全身を使って描くにはちょうど良い感じがします。

時間に関しては、10分あると、色んな素材の併用を試せる気がします。もし色を使うなら15分～20分は欲しいです。2分とか短い時間になるのであれば、単一の素材で描くと思います。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

油絵の中では黒い絵具は使わず、木炭のリンシードオイル漬けを使用しています。今回のクロッキーでは、墨汁をはじめ複数の黒い素材を使っていますが、「黒」という色だけでなく、色の表情にも変化が出るよう、様々な工夫をしています。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

様々な要素に変化するように使いたいです。滲みを活かす黒と粒子感が出る黒、画面を締めるための黒など、用途に合わせて使い分ける様に工夫していきたいと思っています。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

軸と全体感に重点を置いています。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

無心になって、その場で起こった出来事にちゃんと反応できる様にする事です。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

なかなか難しいのですが、その制作時間の中で一番ピークに来たところで仕上げたいと思っています。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどがありますか？
表現が違うので見た目には分かりにくいとは思いますが、描いている本人としては「特に違いはない」と思っています。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

考えてから手を動かすのではなく、反射に近いレベルで、瞬時に色んなことへ対応できる様に、身体へ染み込ませている感覚です。締め切り間際の追い込まれた時に活かされている様に思います。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

最も自然体に近い、素の自分。